



昭和31年2月5日号



昭和56年4月15日号



平成14年6月号

タブロイド期
創刊号(昭和29年11月)～
96号(昭和37年3月)

B5期
97号(昭和37年4月)～
794号(平成3年4月1日)

A4期
795号(平成3年4月15日～)

広報おたけは、まちの歩みとともに発行を積み重ねてきました。
各号で紹介した情報は、まちの歴史。
掲載した市民の皆さんの顔や声は、まちの宝物です。
今回の特集は、広報紙を通して歴史を振り返るとともに、広報紙の
役割について紹介していきます。

人とまちを結ぶ情報の架け橋
広報おたけ



【平成6年 11月1日号】
 1994年最大のイベント。総合市民会館でバスケットボールの熱い戦いが行われました。

【昭和59年 4月15日号】
 今は健康のため、煙たがられているタバコですが、30年前はデザインを市民で作るという愛着の持てる商品だったようですね。

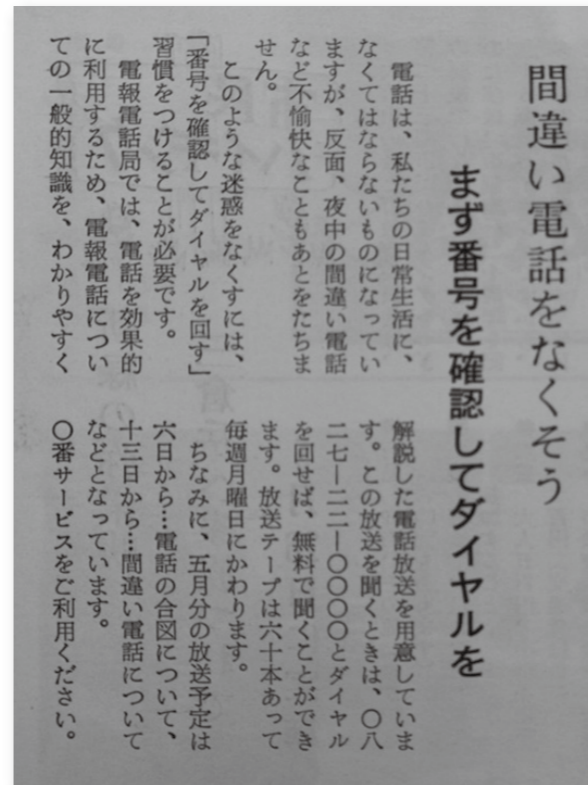


【平成16年 12月号】
 大竹のモノづくりのすごさと、産業のまちとして将来どうあるべきか考える契機として紹介した特集「産業立市」本号は県広報コンクール最優秀賞、全国広報コンクール2席を受賞しました。



【昭和39年 10月5日号】
 1964年開催の東京オリンピックの聖火が大竹にやって来ました。2020年もオリンピック聖火がやってこないかな。

【昭和49年 5月1日号】
 各家庭に電話が普及し始めた頃にはこんなお知らせもありました。



昭和29年に大竹市が誕生して60年。広報おたけはこの7月号で1164号となりました。創刊当時から行政と市民の皆さんをつなぐ架け橋となるよう、そのときどきの行政情報やまちの姿など、さまざまな当時の「今」を記してきました。昔の広報紙をめくってみると、懐かしい出来事がたくさん記録され、さながら古文書のようにも感じます。その時代に何があったのか、まちの歴史とともに当時の記事を振り返ります。

60年分 歴史の足跡 1164歩

広報おたけ4色刷りに変更

平成10年 広報おたけ月1回発刊

広報おたけA4版にサイズ変更

昭和36年 広報おたけ月2回発刊
 昭和37年 広報おたけB5版にサイズ変更

広報おたけ創刊 (タブロイド版)

年	出来事
平成24年	こいこいバス本格運行開始
平成21年	大竹港「ポート・オブ・ザ・イヤー2008」受賞
平成19年	大竹港国際コンテナ定期航路開設
平成15年	安条トンネル開通
平成12年	マロンの里交流館完成
平成11年	第15回国民文化祭開催(川柳・ジャズダンス)
平成9年	大和橋(改築)完成
平成8年	第51回国民体育大会開催(卓球・登はん競技)
平成6年	総合福祉センター「サントピア大竹」完成
平成3年	第12回アジア競技大会開催(バスケットボール)
平成3年	弥栄ダム建設事業完了
昭和63年	市立図書館完成
昭和62年	アゼリアホール完成
昭和62年	養護老人ホーム「ゆうあいの里」完成
昭和60年	阿多田航路にフェリー就航
昭和59年	弥栄大橋開通
昭和56年	阿多田海底送水管布設工事完成
昭和55年	自治会連合会発足
昭和52年	新市庁舎・総合体育館完成
昭和45年	大竹臨港(港町)土地造成事業完成
昭和42年	湯舟団地造成事業完成
昭和41年	立休交差道路「翠橋」完成
昭和35年	唐船浜団地造成事業完成
昭和30年	明治新開埋立完了
昭和29年	大竹市制施行

60年分の 大竹史・広報史

取材を通してさまざまなニュースを掘り起こしています

取材をするときは、ある程度の記事の予測をつける下準備が大事。そして大切なのは、取材で、予測と違う内容だったときに、すぐに修正できることです。予測と違うと大きなニュースになることも、よくあります。また取材時には、なるべく長い時間をかけて、話を聞かせてもらいます。取材先が話したいことと、こちらがニュースだと感じる部分が、一致しないことが多いからです。雑談や無駄話もテクニックの一つですね。取材先が気付かないようなニュースを掘り起こしたいと考えながら取材をしています。

記事を書くときは、取材したこと全てをだらだらと文章にせず、「どこがニュースか」を頭の中で構成した後に書き始めると、まとまった文章になります。書き終えた後は、記事の見出しです。

見出しが付かなければ、記事にまとまりがありません。いい見出しがつけば、その見出しに合った記事になっているか、あらためて読み返します。そうすると、どこを直せばもっといい記事になるか気付くこともあります。

広報紙は、行政の言いたいことをだらだら載せるのではなく、市民が求めている情報を分かりやすく分類することが大事。情報をぎちぎちに詰め込んだばかりに、せつかくの情報が伝わらないこともあります。

広報おたけは、分かりやすくてよい広報紙だと思います。私も大竹に来て3カ月、どういう行事があるのか、どういう発信をしているのか、楽しく、ときには取材の参考のために読ませてもらっています。



中国新聞社
大竹支局長 松永 景道さん(45歳)



地域の情報を数多く発進する「中国新聞」

愛のある文章で、伝わる誌面作りを心掛けています

「地元の素敵なお店、魅力的で面白いものを伝えたい」。広島に限らず、地域のタウン情報誌に携わる編集者なら誰もが大切にしていることは、これに尽きると思います。

地元の飲食店情報が載っている雑誌との印象が強いかもしれませんが、それだけではありません。地元アーティストの展示情報や商店街のユニークな取り組みなど、編集者が選んだ広島にまつわる選り抜きの情報が掲載されています。もちろん飲食店も、今広島のグルメシーンを騒がせている話題店や新店、人気が高まっている料理などを、独自の視点でセレクトし、愛ある文章で紹介しているつもりです。

特に雑誌の魅力的印象付けるのが巻頭特集。

特集を作るときに私が一番大切にしているのは、テーマとする題材を編集者本人が本気で面白がること。そしてその自分が「面白い!」と思っただけの部分で、どんな方にも伝わるようなレイアウトや文章で読者の皆さんにお届けすることです。毎号作っていると視野が狭くなりがちなので、この点にはかなり気を配っています。

地域情報誌を作るうえで、私が目標としているのはクレイジーケンバンドの横山 剣さん。横浜で生まれたクレイジーケンバンドの曲の中では、横浜という街が輝いて感じられます。広島に住む多くの人が、広島での暮らしを楽しく感じる手助けが少しでもできれば…と思いながら、毎月雑誌を作っています。



広島の魅力がたくさんつまった「Tj Hiroshima」2013年8月号では阿多田島が紹介されました。



Tj Hiroshima
企画編集長 平谷 尚子さん(38歳)

プロに聞きました

広島の魅力が満載の地域情報誌「Tj Hiroshima」企画編集長の平谷尚子さんに、地域に愛され続ける情報誌づくりのコツを、地域に密着した記事で親しまれる「中国新聞」大竹支局長の松永景道さんに取材方法や記事作成のポイントなどを伺いました。

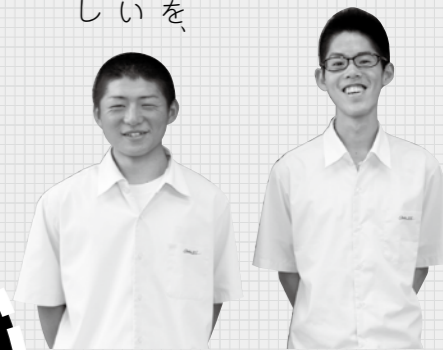
読者に聞きました

広報おたけをどう感じているのか、さまざまな年代の読者にお話を伺いました。

竹林 昂星さん【大竹高2年 生徒会長】

最近、親に勧められて、広報紙を読むようになりました。文化的活動やスポーツなどで表彰された人の記事は、市内で頑張っている人を知ることができるので、好きな記事の一つです。

私は、大竹高校の生徒が頑張っている姿を、もっと多くの方に知ってもらいたいと思っています。機会があれば広報紙への掲載をお願いします。



(左)松本 哲弥さんと(右)竹林 昂星さん

松本 哲弥さん【大竹高3年 野球部】

広報紙は、全体をざっと目を通し、気になった記事を読んでみます。イベント情報などは、よく読んでいます。また5月号の和紙の特集記事は、先輩のお父さんが出ていたので興味を持ちました。読んでみると和紙のことがいろいろ分かって面白かったです。71歳の方が、おおたけ手すき和紙保存会で最年少というのに驚きました。

藤村 榮子さん【65歳 元町3】 松村 妙子さん【72歳 元町3】

広報紙はよく見ますね。市のことがよくわかり、記事の内容が充実していると思います。

最近では、特集に載っている水道の仕組みは面白かったですよ。

自分の周りには、独身者が多いように思うので、婚活とかの企画ものの記事があると読んでみたいと思うようになるのではないのでしょうかね。



(左)松村 妙子さんと(右)藤村 榮子さん

福中正さん



福中正さん【62歳 南栄3】

会社に勤めている頃は、広報紙を開くことはほとんどなく、最近になって読み始めるようになりました。

やっぱり医療や保険の記事はちょっと難しいですね。とつきやすい内容にしてくれたら読みやすくなると思います。あと、過去に取材した記事の振り返りや追跡調査とかしてみたらおもしろいんじゃないかな。

最近の特集記事は、大竹の自慢を知ることができていいですね。毎回楽しみにしています。市外の人から大竹の良いところを聞かれることがあるので、広報紙で知った内容をPRしたいと思っています。

村上 梢さんと葵一くん



村上 梢さん【28歳 元町2】 葵一くん【4カ月】

広報紙は見てますよ。以前、スキーバスツアーの応募の記事を見て、実際に参加したこともあります。今は子どもがいるので検診など赤ちゃん関連の記事や、裏表紙の子どもの写真などが気になります。

もっと他のお母さんたちと触れ合えるような記事も載せてもらえるといいですね。あと、記事をもっとわかりやすく書いてもらえるといいな。いろいろ難しいことが書いてあるので。(笑)

いつか裏表紙に自分の子どもの写真を載せたいなって思っています。

人の笑顔を、まちの元気を伝えたい

人とまちをつなぐ、身近な広報紙へ

広報おたけは幅広い世代を対象とした情報紙。

現在、広報紙は各世帯に配布しています。これは、行政のこと、まちのことを多くの市民の皆さんに知ってもらいたいとの願いからです。広報紙が家に届くことで、読んでもらえる機会が増える半面、興味がなければ開かれることなく、置かれたまま

になる可能性もあります。広報紙は行政から市民の皆さんに知ってほしい情報を詰め込んだラブレターのよくなもの。手に取って読んでもらわないという意味がありません。

そのため、行政情報やまちの魅力をより広く、深く伝えるために特集記事を掲載しています。企画や取材、レイアウトと悩みながら作成する日々ですが、市民の皆さんにとって特集がまちを知って感じる上での「得集」となるよう、まちの魅力を届けていきたいと思っています。

また、記事の作り方では、写真を多く使い、伝えたいことをタイトルで表わすなど、少しでも理解しやすいよう、工夫しています。行政用語は分かりにくいと言われていますので、なるべく市民の皆さんが日頃から使うような言葉の使用を心掛けています。

人とまちをつなぐ架け橋に

これからの大竹を良いまちにしていくには、行政と市民がそれぞれの役割を持ち、一緒になってまちをつかっていくことが大切です。しかし、まちのことを知らない、魅力が分から

ない中では、まちづくりをしようにも思っても、なかなか行動には移りません。そのためにも、まちの情報を伝える広報紙の役割は、ますます重要になってきます。

これからも市民の皆さんがまちのことを考え、行動するきっかけとなるよう、まちの姿を伝え、人とまちをつなぐ架け橋として、広報紙を届けていきたいと思っています。

ビビッと紙以外でも情報発信

まちの情報は、広報紙だけではなくありません。インターネット空間では、ホームページやフェイスブックで新鮮な情報をお伝えしています。また、目の不自由な方へ「広報おたけ音訳版と点訳版」を用意しています。これからも、それぞれの特徴を生かしながら、まちの情報を届けていきます。



ホームページ



フェイスブック



音訳版広報



点訳版広報

